



古今御講明題集



古今俳諧明題集雜部目錄

雜カク 春 初葉
復 十一葉
冬 卅四葉
卅二葉

紀行キコウ 春 從初葉至五葉
復 從十二葉至十六葉
冬 從廿四葉至廿四葉
從卅三葉至卅四葉

留別リウベツ 春 五葉
復 十七葉
冬 卅七葉
從卅四葉至卅五葉

題詠タイエイ 春 從六葉至七葉
復 從十九葉至二十葉
冬 從廿八葉至廿九葉
從卅五葉至卅六葉

漫興マンキョウ 春 初葉
復 從十一葉至十二葉
冬 卅四葉
從卅三葉至卅三葉

送別ソウベツ 春 五葉
復 十七葉
冬 卅七葉
卅四葉

贈答カウタウ 春 六葉
復 從十七葉至十九葉
冬 從廿七葉至廿八葉
卅五葉

題画タイガ 春 從七葉至八葉
復 從二十葉至廿一葉
冬 從廿九葉至三十葉
卅六

賀

春八葉
復從二葉至三葉
冬三十葉
廿七葉

悼

春從八葉至十葉
復廿二葉
冬從三十葉至卅七葉
廿七葉

追善

春九葉
復冬

懷舊

春從九葉至十葉
復從廿二葉至卅三葉
冬從卅一葉至卅七葉
廿七葉

祝詞并唱句

春從十葉至十二葉
復廿三葉
冬廿八葉

上世片歌并今世旋頭歌片歌

從卅八葉至四十六葉

古今俳諧明題集雜部

春雜

春は野や襟の海は日を送る出歌
假山のあふも去るはあふり
朱鷺は羽に夕日やりし喜のた

一紅
鱸亭
東叔

漫興

木瓜薊様一々見う野ハ茶ぬ

江山店

焼ケにりささしども花ハ夜まゆ

北枝

棋のあつさひをやめてや
大やしのあつさひをやめてや

ふ思にき^{フク}て後や松くく先

金井

紀行

羈旅立春

余ハ^{ハタゴヤ}後ぬと暮やのくく

涼備

芳野山

山はくく一里かどへく壘にる
喚起^{ウケヒス}のあへてのう橋^{アハラヒ}を
手あて暴^{アラヒ}はすくあや芳野山
足鞋にも暮のゆくやうく山

全全全
全三橋

あはまはあにまてが山^マあな

瑪曉

猿^{イハ}くく花にのゆく神^{イハ}を

芭蕉

あ生^{イハ}をく橋^{イハ}しり

曾北

く^{イハ}くく入^{イハ}をや神^{イハ}橋

京 煉瓜

芳野^{イハ}のく^{イハ}のたる山^{イハ}あ

富鈴

世の申^{イハ}はあ^{イハ}不^{イハ}世^{イハ}波^{イハ}で芳野山

野坡

あはま^{イハ}の橋^{イハ}に^{イハ}曙^{イハ}く^{イハ}あ^{イハ}い^{イハ}ま

芭蕉

書寫山

何をきく何をくくして序^{イハ}は歴

涼備 全

巖梅 のゑびら

まゝ海へ先や柳のたゝき

涼併

石勒山 いさる

能晴くそりのいりぬやほぢうき

司鱸

入浦 そでが

浦の名は浦海出しく潮 シホ ぞら

汶上

駿河路 がぢる

あつちをきさく言ー山はく殿 涼併
不あれき里くく浦もや梅の花 全

入吹山 いふき

あはれけの二日もきー吹山 全

野と春 のがみは

床の糸まくれくくまはとき 全

いつきの海 は

いづ海日も入れ日も見えく 全

二見浦 ふたらの

燕の尾やうり ふたらの 二見信 柳居

アラムセキ
鷲石

おりの驚くるや おが 水樹
うら おが 西羊

描金松 まきまつ

り まきまつ 希因

曹山 かぶと

志 かぶと 曹山 西羊

宇津山 うづつ

宇津山 うづつ 希因

鞠子山 まぼこ

夕 まぼこ 鞠子山 五葉

猿 まぼこ

猿 まぼこ 寛之

柳浦 ヤウラ

終夜やあまは浦浪にまじりてさき
涼備

ウスヒ
昔妻 柳浦 コイ

ゆくにまじりて妻を思ふぬ木の葉は
全

〜さざぐ

山崎 スミレクサ
あまは浦浪にまじりてさき
芭蕉

あまは浦浪にまじりてさき
全

あまは浦浪にまじりてさき
全

あまは浦浪にまじりてさき
可登
破了

送別 ソウベツ

ゆく妻をよしの人ときり
芭蕉
あまは浦浪にまじりてさき
野坡
あまは浦浪にまじりてさき
利牛
あまは浦浪にまじりてさき
支考
あまは浦浪にまじりてさき
麦林

梅の花 代は夜乙

一音は作甲斐のくはる歌
後山又むし〜ゆくを

旅に又地路をかへよ 涼俣

一系材俳仙座に
回くを羨む

棋もあ〜む月日の進まぬ 全

留別

ゆくまや 芭蕉

あハあ〜り
あハあ〜り

麦 麥林

黄葉山に交戒〜
クハ時

西羊

贈答

香印をさす
付ハにあるぞ

涼俣

見ゆき

曲江

いさく瘦く人のし〜又つらき
そ〜古きおれんを思ひ出ゆれを

宗祇

繁こがち〜
くハ

冠子

題詠

外 詠梅

梅の尾ささやきに二月は月
領下をぬきむやう先のみか

涼 備
柳 居

後 詠

象袖の我袖をびくのたてが

大坂
舊 國

性善のうけを

おと後受はあはれ恒忠梅
沾 德

照 顧 脚 下

りあさるそるも若き見ゆか
麥 林

有 心 無 心

きさ日人いハあはれ水くほま
涼 備

題 畫

西 施 之 圖

海棠の花をうけをあし
猿 尤

古今事林廣記

草さの解ひつひ

後たてゝ解のうひにふよむかりひり涼涼体

青面金剛シヤウミンゴンカウ

碎ぶはくの糸を山はらら全

和田海苔ウヂノイモ

赤あけけ刀のぬいハままままままま兔兎士

反哺ハンポ

古こくく日ひやや子こにに口くち笑わら々々鳥とり江江道道春春

角ツノ成キリ海海毒毒のの床床に

抽ひくく角角解オト一一たりたり糸糸らら糸糸金金谷谷

岩イハ成成崖崖ハハ川川の

月つきををらら海海ののハハををががかりかりががをを越こええににははみみささをを

若わかくくををああいいででああいいししをを

依よ草草酒酒やや須す々々糸糸破破ををすすくく糸糸はは三三橋橋

巴バキキニニヤヤウウノノハハハハニニ
糸糸上上二二画画糸糸

古今事林廣記卷之五

夏のさぐありて
よんをやく
後に夕陽をくはくと見しゲ門の松
季吟

賀か

夏なつのさぐありて
よんをやく

後に夕陽をくはくと見しゲ門の松
季吟

あけまごを
つぎふくへ

やア梅や橋はし枝の末も芳よしい
加賀
万子

下由が書ぬらうらに
うらうらとす

縁ゆかりに抱く雛ひな像も待べし梅のやど
涼唄

ハヤ絶頂たつぎも思くうり寄れ曙はく
全

丁ちやう也やヶ
ふそらをなく

多おほふべし身みがくく飲のむ酒さけを
全

悼いた

おぢいおぢいの作しは
かまうりかまうりに

花はなをよきとて悲かなし
見風

忙いそしと徒たらぬ海うみ春はる社やは
兔うさぎ士し

死しにまゝをなま文ぶん君きみのまか
支し考こう

煙けむりくく見て衣いるを
冠かん子こ

縁ゆかりせし時とき

よのきびのほろにゆきし松きし 全

追善

圃ハクのちのこみけや極のま 大阜

懐舊

碑イシツミの目にちりくく極ウチのち 希因

花ハナの一言を 妙ミチを

夢ユメに思オモひ咲ハナにおもふはくくか 夢林

父の塚

襟エリの遠くたがひつうはま 深魚

敷シキ草クサの塚

縁エリの下に落シくハ情ナむもみまか 涼唄

芭蕉ハク庵アの 伝デンを

もくぐさ小徳コトクあひし泣ナやみ 近江オミエ勝所カトシヨ 曲クマ水

祝詞イハコト唱句ウタマ のまこと

梅ウメ天神アメノカミ あをうめ

古今所稱明鬚集卷之五

時に笑もいづるも自在や梅の花 榊水

麻 治 由

帯にして跡を垂るり紫衣のむ 涼 侷

伊 勢 い せ

何故本の花もあはれにありか 芭 蕉

たうとさや扇にたすは横より 希 因

唱句

文 殊

あはれもあはれをかゝりては 榊 加賀小松山叩

同

浅 草 く あ け

今もその網やあはれおろすに 未 了

同

池 上 い け

八景の通来もあはれもいれくさ 烏 谷

古今所稱明鬚集卷之五

古今詩歌明題身卷之五

復雜

あゝあゝ形てお月の空を花
糖に歌く笛にハハハハ夏の糸
千林

漫興

恋死を身塚に啼くおとづれ
奥州

母火の輝を
つくり

子や泣むお子の母も故の冷りび
江戸 嵐蘭

病中

床々淡々人々々々世世杜
大坂 淡

くいなを
帯たつ

入るの日はまゝにまゝに
不殘

やうき
つふま

何ゆゑぞ袷にいろは歌りこ
涼備

福をかへ

異る水にあふお湯けは清き阿
全

松より

帰るを毛虫
山崎 宗鑑

いぢの

涼しさを身帯にして福を
芭蕉

紀行

古今詩歌明題集卷之五

古今詩明集卷之五

須磨 とも

章魚壺ツボにたつたさ夏や夏 とも月芭蕉

卯月八日

望田にあそびて

灌佛や湖ウミを鹽シホの浮舟ウネき 汶上

涼スズシさや柱杖ハシに袖の帆セけ祀 全

交マ交マに牛ウシハハえり水ミヅくはま 希因

箱根路 たご

湖ウミの下シタゆく水ミヅや交マこ とち 不殘

西ニシ郊キョウ管カン さいごや

桑クワにニ海ウミ罪ツミさく とち 清スガ水ミヅ 涼スズシ佛ブツ

出デ流リウ山サン石シヨク窓マダ いつはさ

蓋フタも水ミヅをシるシ海ウミ去サ とち 一ヒト 麓アシ

卯月ウミの

ちど先より

本ホ着キハハままぐぐ茶チヤもも飯イハしし交マ菜サイ花ハナ 支シ考コウ

古今詩明集卷之五

三

回一

城の山あえ

日何ころハ夏草うぐし

様

涼休

五條

扇の紐うけて糸はあつさか

漁遠

姨捨山 てをむてやま

祖父祖母もけ時持く田くくを

涼休

川中崎古戦場

たと野に入みふしても田くえうを

全

磯家

おせむ家く柳折戸たかー布穀 カニコトリ

全

高野山 カウヤサン

糸月にも柳く見くく涼くはよ
抜もるも扇も涼くふ動坂

麦林
鬼土

石山 やま

志づり中岩に志入皆操の事

芭蕉

木骨強 ちさそ

接道や人の体まぬ木下や之 深魚

醒井 グサメ

一トにに脊中此かハク志 ミヅノ 芙白

閑清水 セシノ

湖 ミヅウミ 志目を御ゆ ミヅノ 一 ミヅノ 鳥醉

大井川 オホイ

是で オホイ 大井川 オホイ 水 ミヅ さつ ツ さ サ 雨 アメ 一鼠

路傍柳 チヤチノベ

田一 チ 権 ケン 植 ウエ ち チ 立 タチ ち チ 海 ウミ や ヤ な ナ ぶ ブ ち チ 芭蕉

鐘崎 カネサキ

波 ナミ に ニ 鈴 スズ 新 ニヤ 葉 ハ の ノ 理 サビ や ヤ 淺 カサ か カ さ サ 記 キ 松巴角

家上川 ウケガミ

累 ツラ 々 ツラ さ サ 日 ヒ を ヲ 海 ウミ に ニ 川 カハ 上 ノ 家 ウケ 上 ガミ 川 カハ 芭蕉

五月雨 イツメ を ヲ 集 ツ め メ ち チ 子 コ 一 ヒト 家 ウケ 上 ガミ 川 カハ 全

不破園 フタノ

古今事類通考卷之五

蜀にまうりハ又く不破名園 楚調

野 宮のや

白^リ荊^{ハナ}花もまう思木のうりお小 麥林
交^マ草に瘦くくろ木れ多 希^カ因
や^ハはま^マまのまもまびー 摺^キ半 兔^ウ士

木 生 海 ちくぶ
しま

涼—まや海にうま海竹 生 海 素 輪

教^{ロツ} 生^{キウ} 不^{ロキ}

ま^マひく^クるにぬく^クく^ク不^クく^クぶ^クは 一 鼠

子 賀 浦 ちうの

帆^フに^ニり^リ水^{スイ}く^ク教^{キョウ}へ^ヘく^クセ^セ夕^{セキ}ま^マい^イみ 全

宇 津 山 やつこの

草^ナ若^ガ共^イ根^キも^モ薪^シく^ク暗^{アン}— づ^ツつ^ツの^ノ中^{チュウ}は 許^コ六
か^カを^ヲい^ハる^ル何^ニり^リぬ^ル山^{サン}路^ロや^ヤか^カむ^ムこ^コ中^{チュウ}里^リ 乙^ニ路^ロ

在 東 ちを

いひ

古 井 戸 を 開^カき^キに^ニま^マ八^{ハチ}海^{カイ}あ^アつ^ツさ^サ小^コ 後^{ノチ}上^ノ田^ノ 蟻^{アリ} 城^{シロ}

古今事類通考卷之五

くは

涼しきやほしきく不二に後むさ
ふえほなどたつとも志れはまは家
小棘繁葉さけ折涼しや等丁が家
息つぎに柳のえいほ夏野うさ
龍崎まてハ遠し本信に獲後葉
系糸の杖にまがゆやなくさけ
かくまはれ休の宿雁おちほくぞ
短衣や東の星ハるにあハハ

伊勢射和 三十風
西羊
芭蕉
蒼狐
下毛長刺 玄
素因
日暮老翁 文兆
王負

送別

麦の穂や出ぬけくも粒麦 中
浦ほやむらぐ海横のさく北涼
祖来くし穂にゆく時
死侍まきしと待日ややくふは
涼体 伴歩に
合款をゆく時野に飛ぶや穂くは
借に 日く時
夏侍時の名やまきくよ 嬰粟は花
柳糸系にゆく時
夏侍時ハ又ゆくも夏やまきく

野坡
依水
沾徳
希因
越人
麦浪

留別

飛ヒかへ侍陸枝のきも短ちうー 涼レ備

常柳命を出侍時

涼レさを出くゆく水や柳かぢ 全

贈答

舎飛ヒきりきり侍に

短ナ衣の短ナはハ新イヒキ十シヲヲばバうウ又 支考

柳居ハ東ニはハ西ニ

身ハ水ニはハ久ク侍

又マ久ク侍ハやヤ望シしくクのノ練リ若カ子コ 希因

まにー

ま水ニはハ久ク侍

りリまマふフまマやヤそソちチくクはハ不フくクふフはハ 全

あ侍人ヲをシ失シにハあハ侍ハのノをシあハまマ

まマにニはハ侍

るルまマくク侍ハくク侍ハしシ一ヒト衣ヲをシー 大賀大賀

知チ味ミのノかカど

竹タケ麻マ子コにニやヤまマふフ

報ヒ子コ苑ヰのノやヤどトりリにニハハ侍ハ命ノあハ甲 涼備

保ホ城シかカーラ

おオりリ侍ハ時ト

空カラ海ウミをシやヤ先マ別ワをシくクかカハハ侍ハまマくク 全

人のノ侍ハひ

りリ侍ハに

よヨのノいイやヤアア系ケイへヘまマくクまマれレ杜ツ鶴ツ 三千風

古今竹枝物語集卷之五

仔細にあらせし後

おろしききりあはるるに

麦ま束の笠つくりてや、まきり〜 涼保

十八橋

けりり目に又ゆきとの皆涼〜 芭蕉

杜まを

やどりせよくにハ百合の鬼もあ〜 希因

麦浪亭

〜音〜 涼の収帳ぞまほ〜 涼保

秀ハ〜と向罪のあれど
母ハ〜つべき杖もるきを

懐〜ちのまきり〜あ〜り〜ら〜ま 全

吸あ庭のあゆ〜を
う〜せ〜

松ハ〜一庭のゆをあ〜〜とを 素園

古山亭

涼〜さ〜り〜は〜ま〜ら〜ん〜も〜が〜 麥林

青菴と終〜は〜昇涼の梅も園
四〜ま〜り〜せ〜り〜た〜ら〜れ〜に

道ハ船のふと〜ら〜れ〜と〜梅は友
と〜ら〜い〜夏〜を〜多〜に〜う〜ら〜る〜

樽シシのあぬまひもつけ〜 涼保

まをま〜り〜ひ〜こ〜れ〜に
ま〜ら〜る〜人〜

ニタヤのあぬ守モリたのり〜 全

加の大系カ

籠あや子に外も人ハヒガ 南蘆

人〜ら〜る〜

古今竹枝物語集卷之五

十九

古今詩歌明題集卷之五

短衣やまほぐ文衣し明くも
みどろ衣やあづけく疾も物へ伝

西羊
彌波
女藤波

題詠

竹息

すのよひやつらむさふどハ故もるり

春魚

大道廢有仁義

一人すく庭の旨まに涼ミリ

涼鬼

皆是吾子

眼^{ナテレ}麦^{レコ}や照^レ侍も星^レ影も茶^レ此^レぬ

希因

漁父辭

香^レひより晴^レにハ長^レくぬか^レ侍^レ小

素輪

鸞鳳伏窠鳴梟翱翔

柳^レ海^レやま^レ海^レを^レ結^レくま^レに^レ来^レる

玉負

外面似菩薩内心如夜叉

うつくし人^レと^レは^レま^レ命^レい^レた^レく^レ小

龙琴

古今詩歌明題集卷之五

教戒之圖

あゝこの侍ら見せしや百合花を 西洋

題 タイ 畫 ガハ

扇のふた あふは

涼しきや富士に伝のり此傳つるを 涼備

遠 タル 摩 マ

官へむいりびとをのびいとも 布 カニコトリ 穀 麥林

布 ホ 袋 テイ

あでしこれに和や機せし夕涼を 全

大 タイ 黒 コク

ありあげと楯しつりかゝるに 涼備

幞 フ 毳 アヒ

けそへ御旗も借さばはつるやを 全

草 クサ 茶 チャ 末 マツ

仕 シ 人 ヒト ひしと鐘の中る侍異さる 江 エ 祇 ギ 負 フ

はるあそびたは社務の画に

うらひをれ息女ハスメ々々啼ナぬふとそら

守武守武

賀カ

花臥が病より

たて姿をかく

とくすめあしでいをうかこつり

涼俤

病はを

や

百艸のあともをさうりさうそ雨

双飛

ふたまりり

く

報ヒルガホ子コも株クサたをのいそぎ

許六

ちのめく一トそあに

呼あすけはる人に

すげぬうり船ヒナ像うりかえて幟ノボリまじ

路通

悼イタ

児をうりるひ

ふる人

世の家セノイに似ニそやま〜百合ハクの花

支考

おもくけは帳カ帳ヤにも透トうび夕タ涼シヤみ

麥林

れそふ人の力よか

うりてま

多タハせ先サキく帳カに結ムスむ床トコはーら

社女
文車

夏ナツ瘦シマと地チに苔コケへ倚ヨなうぐさ

日
かふ倚

懐クハ 舊キウ

去倚きのハ珠——々ゆも夏こころ

田菴を

たつひ

涼——さや此庵をさく位もて——

麦林の碑

一持ハ何事へ原——くまこころ

高館 だちり

夏もや兵士もが夏のあと

宇治に

御着馬の正も望び合歡のそま

柳 浦 ぐやぶら

收帳つぬねが悲——波はく

曾参兄弟の塚

赤圍のそそこも水ぞ夏ツ林草

祝詞のり

廿二

古今和歌集卷之五

三

いよごらや 考 へ 流して 神カミ 意ココロ 麥 林

鶴岡つるが

涼ハタ 旗をか のまぐしも 巻 比 下 涼 儀

秋 雜

路のを 家ウチ 比 上 杉 を てる 小 ころ 其 角

と ゆく 下 木 依 々 や 路 の ま 凡 兆

蚊 帳カヤ た び ぬ や 銀 床 の 松 枝ハキ 禪 支 考

実 沼 ぞ 松 の 尾 々 々 も ぬ れ 江 盤 溪 尺

又 月 報 日 い ず ぐ み ち つ ぎ せ ち ち ち ち ち ち ち

縋 け け 夏 ハ 長 夏 三 月 ち ち ち 何 一 哉 白 枝

又 月 や 六 日 も つ の ぬ ぬ ハ 水 ち 芭 蕉

漫 興マシキヤウ

古今和歌集卷之五

七四

糸唐ハ蘇縹に交ほむくくぬ 得牛

入 菴

偏偶カマスハカをいしゆカやカまカくカを 得牛

地務マいカりカ

縹オリ屋カあカゆカにカ白カくカやカ縹カ縹カ 涼傭

物陰もゆめを春阿るカきりカくカを 全

紀行

志波浦

峯カ下カの乳カにもかくカさカぶカりカはカ月 涼傭

羅海寺

ぬカりカ水カとカ羅海もカりカりカさカのカ塔 全

野 宮カのカ

とカけカ入カ侍カやカ板カもカ海カのカまカくカ小カ柴カ垣 雲郎

る 麻カさカてカらカ

齋カハカ皆カ糸カのカ文カるカるカ着カのカまカを 冠子

境 崎カかカかカ

いカるカらカまカやカ新カ流カもカしカけカをカ波カのカまカ 一 氣

アノムセキ
鷗鳥石

けふの^{ウチ}中ぞゆく一そ沼のうき

麥林

三井寺きき流るる

湖上の月を

るが序は月の景色に表は波

季吟

文級はさら

をむ持中一葉の縁ハ表せり

秋後る田
素琴

そしそくに文級川中蓄まらむ

園々

流路崎 あはち

霧^{ハレ}くゆく霧の満々あそち志は

伊豫松山
陰六

大磯

そ祓是は袂がくや後ま月

青藍

くさくさ

船中

夏はやくハそめてもらぬ柳うき

涼楓

一葉ハ中にも

ソハはほそく

きさくさかのかの情中をこかへ

上総長南
桃雨

涼のこころに

うらいでんじ

岩^{カド}稜^{カケ}此^{カケ}欽^{カケ}ゆく^{カケ}鷲^{カケ}や^{カケ}涼^{カケ}の^{カケ}こ^{カケ}ら^{カケ}
 あ^{カケ}の^{カケ}海^{カケ}や^{カケ}依^{カケ}後^{カケ}に^{カケ}横^{カケ}よ^{カケ}り^{カケ}は^{カケ}川^{カケ}
 曙^{カケ}ゆく^{カケ}や^{カケ}廿^{カケ}七^{カケ}あ^{カケ}も^{カケ}二^{カケ}日^{カケ}あ^{カケ}る^{カケ}月^{カケ}
 涼^{カケ}も^{カケ}ち^{カケ}や^{カケ}二^{カケ}日^{カケ}あ^{カケ}や^{カケ}一^{カケ}家^{カケ}は^{カケ}す^{カケ}の^{カケ}
 涼^{カケ}の^{カケ}日^{カケ}は^{カケ}け^{カケ}入^{カケ}倚^{カケ}者^{カケ}や^{カケ}枝^{カケ}は^{カケ}枝^{カケ}は^{カケ}枝^{カケ}
 馬^{カケ}驚^{カケ}く^{カケ}客^{カケ}の^{カケ}み^{カケ}ち^{カケ}と^{カケ}詠^{カケ}多^{カケ}り^{カケ}
 涼^{カケ}に^{カケ}と^{カケ}立^{カケ}向^{カケ}が^{カケ}り^{カケ}り^{カケ}不^{カケ}破^{カケ}を^{カケ}る^{カケ}月^{カケ}
 身^{カケ}に^{カケ}去^{カケ}む^{カケ}も^{カケ}指^{カケ}も^{カケ}指^{カケ}の^{カケ}山^{カケ}は^{カケ}ら^{カケ}り^{カケ}
 羊^{カケ}薔^{カケ}麦^{カケ}の^{カケ}涼^{カケ}に^{カケ}そ^{カケ}そ^{カケ}黎^{カケ}明^{カケ}う^{カケ}を^{カケ}

涼^{カケ} 芭^{カケ}蕉^{カケ} 全^{カケ} 支^{カケ}考^{カケ} 雲^{カケ}裡^{カケ} 希^{カケ}因^{カケ} 五^{カケ}竹^{カケ} 涼^{カケ} 儼^{カケ} 湖^{カケ} 關^{カケ}

九月九日

うらやちにあま

こころは又來はるや 青藍

送別

秋風は 涼 麥林

伊勢の入り物多ははに

葉は涼をたむは 涼儼

留別

青まがハ 研居

毛尻の涼に 麥林

月は涼涼免ハ 涼兔

小枝美や才と侍に

奥よ

物もまゝに庭ひさしくまゝに水

芭蕉

社中の

くくく

いろくりにそごくく選くや種ふく座

凉休

贈答

昼くおハ庭むくりや種くく座

凉休

紫葺にすぎが海彦や秋の中

支考

吉梅多侍

俳仙窓

お櫻アラも女もるくくくみぢらうを

凉休

吉盛ハモチ此女に

せしし侍人と何れを

蒲萄にも乳少く志れどくみは月

全

凉休の縁はやどとへ

まやぬり後くまどんひやあそと

おち白ナと夢を動かはぬく極うを

希因

やとるぬくくこの

下にあひく

このぬのりみちらに戀を女とハ

江戸秋色

は光祿師は

あつり流しに

涙水もむるにもあつるも菊はあど

凉休

采女を

うい

お青や二度にゆゆく若れいん

上毛西牧 蘆光

旅より白隠禪師は

福侍

不ぞ見えぬは何れので青らん海

青藍

題詠

三界唯一心

蒲葦や蔓一とどけ心よ

三足猿

木と月けふに代作やく中此徳 涼徳

如是我聞

熱閃や二度めにさへまほふ橋 白結

皆是吾子

櫻輪にるぬ子もなき彼者々を 沾徳

三笠山石墨

若の歌うつしくる此い海 涼徳

星は名の石をいどむや麻衣いろ 素園

貪着天上月失却手中珠

外海につまはく人やりま月 上毛桐生 宇冲

機關木人

夏の夕人にとくそはかーくを 下総漢抄 柴花

題 タイ 畫 グハ

骸 ガイ 骨 コツ

竟 ハテ ハうを 庭の骨や 畑もは 麥林

兔 ウ さ

耳とつゝ 涙もかまぬぞ 畑さー 兔士

狂画 キヤウガ 達摩 ダツマ

壁に噴嚏 クツサツ のあり 中庭のうら 兔山

懐故の夢を 押へし 海國

蓋 フタ もとらん ぼいぬも ぐうさば 西羊

羣鴉 グンヤ 明月之圖 メイゲツノツ

扉にまゝ ヒラ ぐの クノ かゝも カカモ しる シル 入は月 イハツキ 麥 ムギ 二 ニ

加貝 カガイ

家の縁 イヘノヘ あがら アガラ り リ 人 ヒト を ヲ や ヤ ぐ

まけ マケ る ル 狛 クサ 牡丹 ボタン に ニ 富 トモ り リ 海 ウミ 中 ナカ 有 アル 琳 リン 李 リ

石 イシ の ノ 泊 トク

たま タマ り リ ま マ り リ 人 ヒト へ

時もく〜紀の宿馬にた枝を〜記 酒堂

悼 いゝ

哀^{アサカホ}多^{カホ}秀^ホ中^{ナカ}や〜月^{ツキ}は^ハ飛^ト 采仲

目^メ茶^チ比^ヒ鬱^{ウツ}令^{コウ}の花^{ハナ}も^モ多^タく^ク 杉風

此^{コノ}時^{トキ}を^ヲ多^タく^ク 季吟

母刀目あつしく〜時
ふせむ〜を〜よ〜
とせ〜が日あ〜

目も多^タく^ク 能登七尾 有英

希因多〜

情^{セイ}帰^キも^モ多^タく^ク 涼城

九月八日 芝山の事 為ま〜

あま〜ぬ世に〜 全

九月十二日 双龍 児を〜

人の親^{オヤ}も^モ粟^{アヲ}に^ニ 全

母の書に〜

吹^{フク}に^ニ 麥林

麦林作を

登^{ノボ}蓮^{レン}が^ガ芒^{ホトトギス} 希因

懐 クハ 舊 キウ

一 笑^{ウツク}が^ガ跡^{アト}を^ヲ

極も勤け秀^{ナク}哭^{ナク}し名ハ海^{ナク}ま^{ナク}の^{ナク}芭蕉

大和のふ代女ハ男又なるむねよく
孫せ侍りぬもれおふらむらむ

大^カ文^モ字^ジの火もあつ^ツつを^ツハ昔^キはあり^リ涼^{リョウ}俣^ヒ

父いませし時酒を
このこ終ひりしを

結^{ムス}州^ノ所^ノより^シ此^ノハ新^ニ酒^ニに父^ノ名^ヲ一^ト麥^ノ汀^ニ

柳^{ヤナギ}浦^{ウラ} ガウラ

月^{ツキ}も^モひ^ヒや^ヤ底^{ソコ}にも^ニ海^{ウミ}も^モみ^ミや^ヤこ^コも^モ涼^{リョウ}俣^ヒ

實盛之由

む^ムづ^ズん^ンや^ヤあ^アか^カぬ^ヌと^ト此^ノト^ノの^ノま^マま^マく^クも^モ芭蕉

信^シ玄^ン之^ノ古^コ城^{シヤウ}

々^々見^ミを^ヲ帷^イ幕^{ハク}の^ノち^チも^モま^マま^マま^マま^マ涼^{リョウ}俣^ヒ

祝詞 のつ

菅^{スガ}神^{カミ}

一^{ヒト}雨^{アメ}や^ヤ日^ヒに^ニま^マま^マま^マま^マ神^{カミ}も^モま^マま^マ希^キ因^{イン}
松^{マツ}も^モあ^アま^マ海^{ウミ}も^モ南^{ミナミ}枝^エも^モ賽^{ウラ} メ モ ド キ 梅^{ウメ}路^ヂ

太^タ宰^{サイ}府^フ

御^ミの^ノ波^{ナミ}に^ニま^マま^マま^マ砂^{スナ}も^モま^マま^マま^マ涼^{リョウ}俣^ヒ

古今事類彙編卷之五

冬 雜

人の歌徒き音をきき信水水 雨石

漫 興

飲料リョウに加茂川おちちどまうか 京 浮風

おりのうけを 略にあへるに 支袖に時何となく 一く流うを 維然
暮コトの香あうでさなむあぬべ 大和佐保川 乞散人

紀 行

文字 関 せりトウ 漢の名はよまきりやぶらちをまが 卯ウサギ 七

編 月 八日 山越くく 涼 感
編 ハや山越吹海まる 油カッ 名

古今事類彙編卷之五

越の候つる

くきもや夏も後ハ親も〜に 汶上

映族山 をむま
てやま

竹〜の映の水盤や林をむま 琴詩

あ宅園 あたり
のせき

寄族第 一の脊中をうちたきき 京 晚山

若松の 山然えして

月も日もこころ〜やあはれぬ 冠子

隅田川 をみど
うが

船の長さ〜者も〜さうな 乙 塚

竹生時 ちく
しよ

水もたけ浦少〜竹生時 麥林

是利字 アシタノガ
コウ

毎事 トト
トに〜は〜 去 柳 几

くさく

松人よ香名もまじ神よ〜
枯くさび〜
芭蕉
理然

送別

あま〜二人の痕や〜
桑人

強通に
まう向時

見や〜松人〜
智月

冠よ古々に
序序を

〜や〜
涼信

留別

あ〜〜
岸虎
麥林

贈答

薄之祿作の
家〜

成〜
涼信

〜
人〜

あ〜
希因

何〜

茶花や〜
全

古今行状明集巻之九

葉の沸くぬくもりやまは此魚一匹モさし

尾に赤き人

於~~~~~世をうけ取中水 西美

題タイ詠エイ

修羅道シユラダウ

枯葉や起す我より~~~~~
水仙にうひくまハるるりり 麥林

沉浮自在チンフジザイ

水多や暴風の浪に浮あがり 霞跡イロヒ

言總のたまは

固く~~~~~

あつを日なけくぞ縁~~~~~
馬影ウマカゲ

白シロ

初雪や鳥の雪は飛ぶらち 子永

題タイ畫ガハ

出山像シュツサンゾウ

埋火や曉るるを~~~~~
麥林

達摩タチマ

古今事考類聚卷之五

旅意に履や跡して地カキ 全
夢路ハ皆云切道の枯野ウ邦 一音

六歌仙

源コト 二人あす海や秋何ハ夢 涼備

東坡

糸のいとねもくもね一筆比常 其角

莊子

襟と何れも愛ハ是理ど何細計 涼備

賀

あつたに吸あ巻の

喜此かい能原の通やまをえしら 入楚

悼

かきうをまにかくも中枯芒ハナ 其角

十月を愛うとばうまかへりもあ 嵐雪

麻も素をゆりもさびし野野山小 支考

カウや縁をかえりもあ 野坡

年の流り世つがの思うる

古今事考類聚卷之五

凍^アき^ハの^クひ^ハも^ハん^ハど^ク先^ハの^クり^ハぬ^ハ守^ハ武

そあの人を

かよくをへるに

や^ハよ^ハい^ハぞ^ハ見^ハる^ハ一^ハり^ハふ^ハふ^ハ友^ハち^ハと^ハり^ハと^ハり^ハ麦^ハ汀

懐^ク舊^キ

芭蕉塚むせと

葉^ハを^ハく^ハり^ハふ^ハく^ハち^ハや^ハく^ハに^ハき^ハま^ハえ^ハ角^ハ上

友人の

かきあしと

葉^ハへ^ハく^ハいた^ハぬ^ハを^ハ啼^ハく^ハや^ハ友^ハち^ハと^ハり^ハと^ハり^ハ麦^ハ林

祝^イ詞^ハの^クつ^ハに^ハ不^ハ思^ハ識^ハの^ク海^ハ留^ハる^ハ葉^ハ小^ハ秀^ハ橘

官神

袖^ハハ^ハ袋^ハ袋^ハの^ク像^ハや^ハそ^ハの^ク先^ハ其^ハ梅

糸もろくむしりきりて海に
叶神にすくづ

糸^ハの^ク敷^ハも^ハ本^ハ結^ハる^ハに^ハや^ハく^ハを^ハ涼^ハ依

上世片歌

○古事紀 いささるるはみよといもいささるるのみよにけつるは
行廻逢
 吾と汝とば天の御柱をゆきまきまはひてこのまきひ
 せりのりかくちまきまきつひにまははま時いさなまの
 みよまきまきことあげたはり
 あかはやーえ 愛少女 をまめを
 後いささるるこのみよと
 あかはやーえ 愛少男 をまめを

○檀原宮御宇天皇代 カレハラノミヤニアマメノヒラススメマシヤリヨ
 武神

言依立のりあそはせりのをく免れ才小大物を神の御

娘いささるる娘もいほせはくを大久米の命あつるを
 志うくおろんまへにアせりやぐてまろろをまきく免して
 御製效のみすて若狭い

且 最先立 愛 巻
 かつくもいやささたてはえをーまらひ
 則いささるる娘に大久米の命詔なつふれ時中懸利目
 をえくあやーとねがうて

天地取坐登立利所懸利目
 あめつはちとまよーとくちとさけるとめ
 若狭い

大久米の命

を少とぬにた直ふあひむく我がさけるく

○纏向日代宮御宇天皇代 景行

東のくはたえををくむけあづきまへがへまのし時

倭建命

新治筑波過幾夜寝つは

御歌をつま

御史院君

か考あへてよは九夜日十夜

○日一たびに能炊野ふあまのし時園志ぬびま

倭建命

は愛哉吾家方從雲立來

○倭建命神さるまへてやいの志強ちどりとるまあめに

うけあまはにひくひてまびぬまへを破にゆひぬ時

まはばちどるはまハゆうどていそつこ

○難波高津宮御宇天皇代 仁徳

まの〜み〜女まの〜は機織せ海をえそかり

とらんけうと御製歌のこしてそひけひりゆ

女鳥玉

高性 別御衣豫 豫 女鳥玉

桑田 政賀 媛 愛憐

○日本書紀

天皇くつこのくがひのを免ぐとおほせど底の
孫さみまひふまろくえのそであまことしあつりそのさ
つれもまろむひこをそいすれころをさあぬくく小
あを給らん

天皇 德仁

水底経臣 少女 誰 将養 天皇 德仁

○古事記

天白とよのありまー給らんとはの國はひ先嶋に
いですは時その給にかまは子うの侍をえそまへて大御
のみしてそひけひりゆ

武内者依

汝皇子 終 治 雁 卯産

○葛城忍海之高木角刺宮御宇天白代

清 寧 啓

たまふをみなのををそまろく

志昆臣

大宮 彼 果 隅 傾 ぬけり

古今昔明是集卷之五

かく〜〜〜〜〜てそ〜〜〜を〜ひ〜

袁祁命

大^大 愚^愚 偶^偶 傾^傾 ねほたく〜を〜か〜ことす〜か〜ゆけき

石上廣高宮御宇天皇代

賢

見^見 武^武 烈^烈 紀^紀 ひつぎの〜〜〜を〜ひ〜お〜て海松極^{ツハイ}の

欲^欲 誼^誼 にた〜〜〜の袖を〜〜〜つ〜とまをを

輔^{シビ} の長お〜〜〜ひつぎの〜とま〜〜

〜をををを〜

志毘臣

臣^臣 子^子 孫^孫 重^重 韓^韓 垣^垣 繼^繼 皇^皇 子^子 志^志 毘^毘 臣^臣 せこのこがや〜から〜り〜せ〜や〜み

明日香川原宮御宇天皇代

皇

日本書紀 風^風 とその〜〜〜ん〜が〜もあ〜う〜時^時 深^深〜の

〜らに

送^送 琴^琴 所^所 聞^聞 ともひ〜に〜こと〜こ〜ゆ〜まのやゆむら

後岡本宮御宇天皇代

齊

紀^紀 伊^伊 温^温 泉^泉 子^子 のく〜に〜ゆ〜い〜す〜〜〜に〜年〜を〜給〜へ〜と〜の〜
建^建 二^二 をおもや〜

天皇

愛^愛 朕^朕 雅^雅 子^子 置^置 將^將 行^行 天^天 皇^皇 白^白 玉^玉 ふう〜〜〜〜〜か〜〜〜を〜〜〜

古今昔明是集卷之五

さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
川を流るむはり親

おるどー

川舟の篙は志つくはゆ舟を流るる

ねぬー

お月ぬはをぬーおり入ぬのあたる雨

○おー人船のさーのさるるあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる

さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる

○さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる
さくばねはり女婿ハ親のしるく入るくがあぢ秋志はるる

しつゝおぼろしくてうらなふもあつたおのひのうらなふけ
げまことけよあつたけ

老とるあ目をあんでりひてはくやーさ

やちま

く
は

水スミたかりげうきあが小田ま

江エ

綾太理

雨アメ漢ツミ月ツキよくとまことあまひくぬとま

破了

東契

百枝

西羊

渡江

友梅

雲即

ゆゝ林ハヤシまきまきしゆゆめがらまきまき

まゆまゆまゆまゆのまゆかふるなくを

まマニツサまのつらひのまイモまイモまイモ

まイモまイモまイモまイモまイモまイモ

まイモまイモまイモまイモまイモまイモ

二芳野ハ龍^リ跡^キも橋の久し^クは

琳理

不^レと^レび^レま^レ了^レキ^レ有^レ居^レむ^レた^レら^レを^レを

禹貢

鴻^ノ居^ル枝^ノ火^ノ火^ノ教^ニ妹^をん^そめ^一

兔洲

系^セく^レに^レく^レも^レ今^をせ^いく^もと^先む

コトモリハ先^ク至^ルの^所に^まと^こる^もり^た
か^るに^レ佛^ノの^子に^まじ^りむ^もう^ひけ^り
室^唐十^回す^り之^は一^をふ^つす^中の^二日^一
時^正の^日は^一あ^のあ^うつ^をし^こも^し
た^ひに^ある^もが^しら^おろ^し
終^へる^所に^ある^も細^水祿^作を^るむ



たのよお^しせ^しみ^との^若ハ^うは^は
お^しひ^けし^した^しま^か何^れも^む
せ^るは^回一^のか^る母^つい^しも^も戒^し
く^も時^はい^まあ^うは^けし^しも^し

あつた

む^しら^と糴^{サカ}迹^カの^こま^ご子^{アコ}か^おが^しそ

休^を得^つる^もは^幸か^は作^のり^し
戒^しけ^しら^しを

昔藍

神^をゆ^まの^路を^しも^の山^をを

あ^かさ^こに^戒し^けら^る日^をい^しも^し
む^しら^と糴^{サカ}迹^カの^こま^ご子^{アコ}か^おが^しそ

去ばや



まゝ海のあしすゝてあてはあうたまを

玉の法をうのへしよぶごのたまはを

おま

寶曆十三癸未歲殊九月

吸露菴藏板

東都書肆

通室町三丁目

須原屋市兵衛

京寺町三條上丁

井筒屋庄兵衛

大島一吉

古今片歌明題集卷之五

